



幼児教育におけるICT活用について解説する八戸学院大短期大学部の差波直樹准教授＝18日、八戸市

「補完のための利用」意識を

ICTを活用した保育の可能性について研究する八戸学院大短期大学部幼児保育学科の差波直樹准教授に、幼児教育への活用方法やメリットなどを聞いた。

（聞き手・三浦千尋）
「幼児教育にICTを取り入れることについて。」

幼児教育は「見る」「聞く」「触れる」などの直接体験が基本。子どもたちの体験に「プラスアルファ」して、教育を補完するための機器、という意識で活用しなければならぬ。

乳幼児にスマートフォンで遊ばせておく「スマホ育児」など、幼児教育でのICT活用には負のイメージも多いが、現代

社会ではなくてはならないツール。ICT環境は今や当たり前のもので、子どもも成長するにつれて、いつかは必ず触れることになる。保育施設が正しい活用法を示し、啓発していくことが必要だ。

「メリットは、表現の幅が広がる」「保育の幅が広がる」が挙げられる。例えば、発表会で子どもたちの姿を

スクリーンに大きく映し出すなど、ステージの見せ方を工夫できる。また、動く絵本など、保育者が「こんなことができたらいいな」と思い描いていることを実現する可能性も広がるだろう。

「気を付けるべき点は、触れ合いを通して、子どもが愛情を感じられる保育でなければならぬ。保育施設でも家庭でも、「こんなふうに育てたい」との目的をはっきりさせ、タブレットなどの端末を与え、放しにするのではなく、保護者や保育者が子どもたちと共に見て、一緒に反応する「応答的な関わり」をしていくことが質の良い保育につながる。

その点を踏まえた上で、状況や時間に応じた活用をすることが求められる。

八学短大幼児保育学科
差波直樹准教授